

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	それいゆ児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日		～ 令和7年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の特性を理解し、専門性のある支援を提供している	・アセスメントを適切に行い、ひとりひとりの利用者の特性に合わせて学びやすい環境を整え、視覚的な手立てを使用した支援に取り組んでいる	・引き続き、ひとりひとりに合った支援が提供できるように努めていく
2	・研修の機会を設け職員の質の向上を図っている	・毎月職員研修を実施し、専門的な支援の方法などを学んでいる ・外部コンサルテーションを実施し、専門家からの助言を受けている	・それぞれの職員が希望する研修に参加できるように周知を行ったり、業務の調整をしていく
3	・家族支援に積極的に取り組んでいる	・年に3回程度、児童発達支援と放課後等デイサービスをご利用の保護者合同での交流会を実施しており、就学に向けての情報交換や相談がしやすいようにしている ・日々の送迎の際に必ず保護者とお話する機会を設けて情報共有に努めている	・より多くの方が保護者会に参加しやすいように実施曜日の調整をしていく ・ペアレントトレーニング、親子教室を計画している

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・非常災害時の利用者を変えての避難訓練の実施日に偏りがある	・それぞれの利用者の特性を考慮したり、やるべき課題を優先してプログラムを組んでいたため、療育中は利用者を変えての避難訓練には至らず療育終了後の職員のみで想定しての訓練となっているグループがある	・全部のグループで避難訓練が実施できるようにそれぞれの利用者に合った手立てを準備して取り組んでいく
2	・地域との交流が少ない	・利用者の特性上、地域との交流スキルを獲得する勉強を優先していることと、少人数の中での実践を優先しているため、地域での実践には至っていない	・今後地域の中で実践できる利用者には機会の提供をしていく
3			